



フジカ 35-SE

F 1.9 / F 2.8

使用説明書

INSTRUCTIONS

お買い上げありがとうございました

フジカは従来すでにM型およびML
F2型で広くご愛用いただき、特に

- 1) 極めて鮮鋭なフジノンレンズ
- 2) 鮮明なゴールドフレームファインダー
- 3) 敏速にピントを合わせ得る独特なリモートフォーカシングシステム
- 4) 近代的センスにマッチした新しいカメラのスタイルを築いた、洗練されたフジカスタイル

これらの優れた特長は米国をはじめ海外でも圧倒的な人気を博し、この種35mm判カメラの決定版となつております。

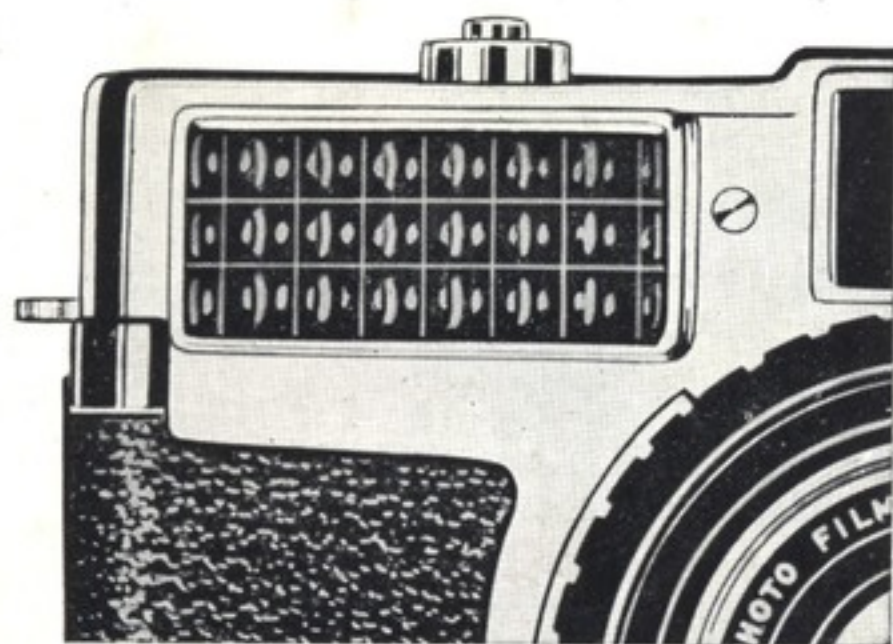
- 5) フジカ35-SEはこれらの特長をすべ

て生かし、更にその上に絞りとシャッターに連動する電気露出計を組み込んで、初心者の方でも常に正しい露光が得られ、特に露光がむずかしいカラー写真に大きな偉力を発揮いたします。

- 6) シャッターは画期的なシチズン¹/₁₀₀₀秒付きシャッターを取り付けました。¹/₁₀₀₀秒は全絞りに使用でき、どんな高速度の被写体でも「決定的瞬間」をピタリとキャッチすることができます。このようにフジカ 35-SE はどなたにも安心してご使用いただけるカメラですが、以上の特長をよくご理解いただいで、あなたの手でその特長をより一層生かし応用して沢山の傑作が生まれますようお願いしております。

お役に立つようにと工夫しました ぜひご一読下さい





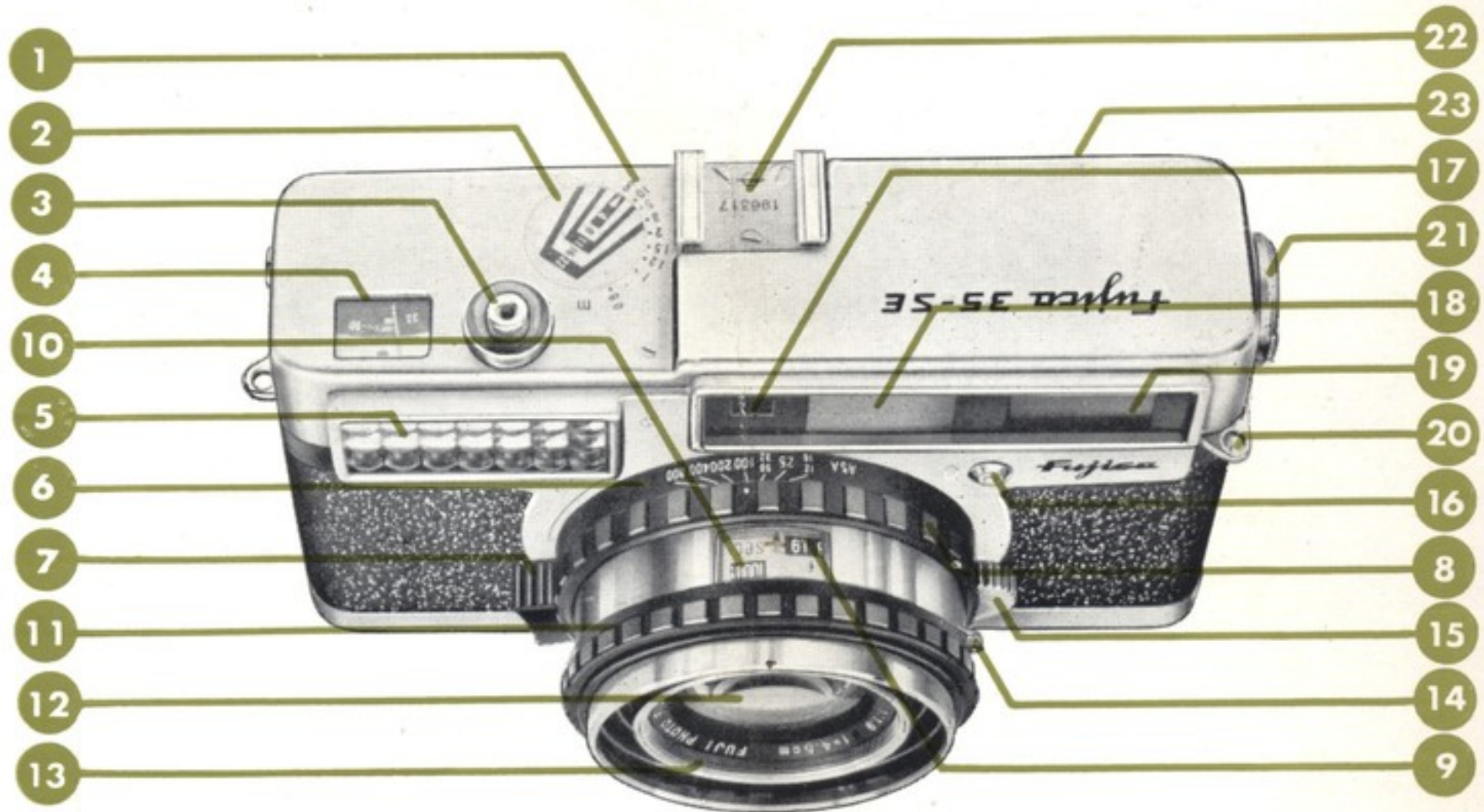
- ◇ 各部の名称…………… 5
- ◇ フィルムの入れ方…………… 6
- ◇ フィルムの取り出し方…………… 9
- ◇ 連動露出計の使い方…………… 10
 - 露出計の正しい測り方…………… 20
 - 倍数系列のシャッターと等間隔絞り
について…………… 28
- ◇ ライトバリュースystem
について…………… 30
- ◇ フジカ35の独創的な焦点調節機構… 32
- ◇ フジカ35の
Giant Picture Window… 34
- ◇ フラッシュ同調撮影の仕方…………… 35
- ◇ フジカ35の便利な付属品…………… 36
- ◇ 取扱い上のご注意…………… 38
- ◇ 被写界深度の見方…………… 39

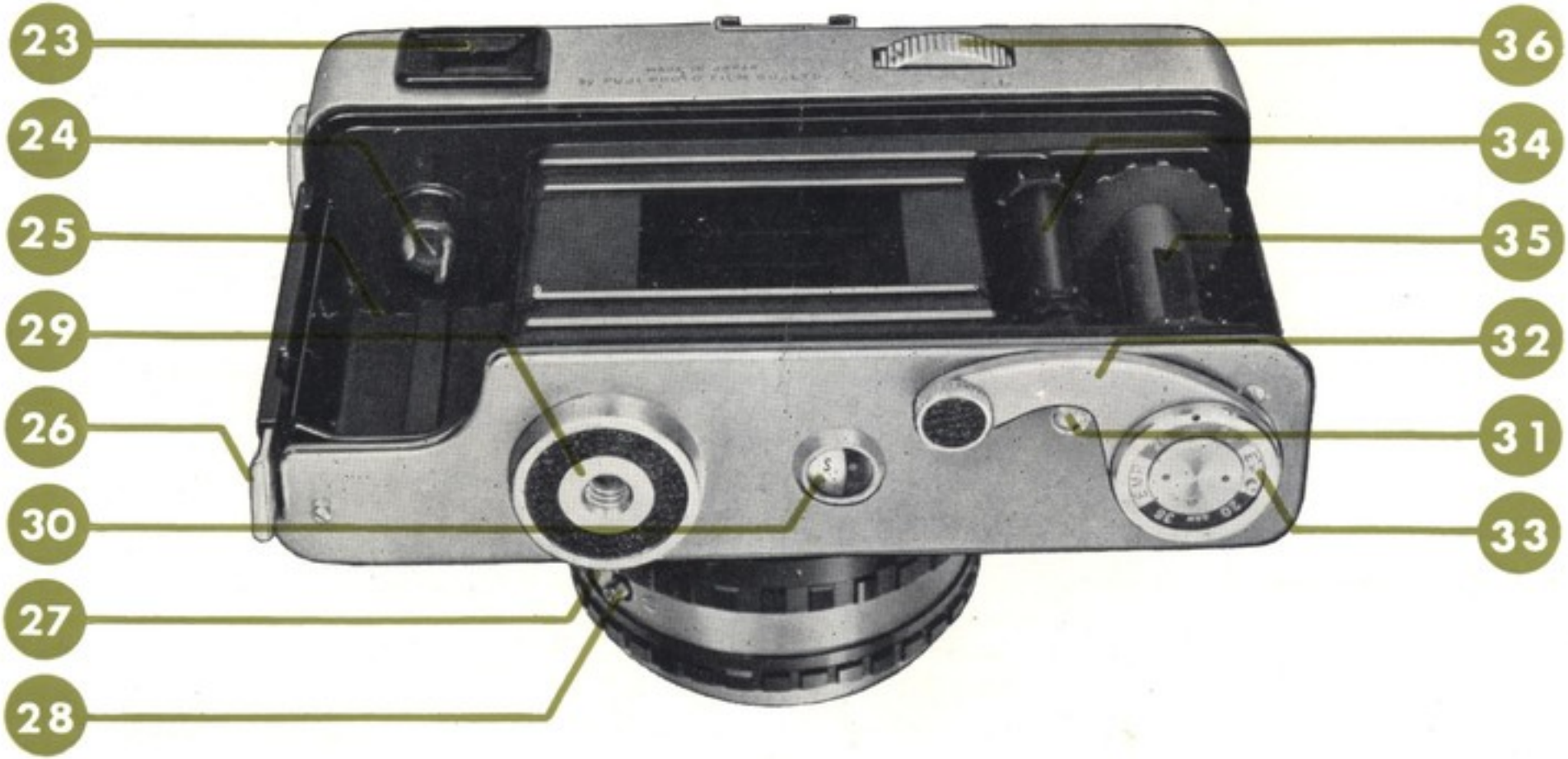
機 構

- 画 面 サ イ ズ : 24 × 36 mm
- 使 用 フ ィ ル ム : J 135 (35 mm 判パトローネ入 36 枚または 20 枚撮り)
- レ ン ズ : フジノン F1.9 45 mm 4 群 6 枚構成 (アンバーコート)
フジノン F2.8 45 mm 4 群 5 枚構成 (マゼンタコート)
- シ ャ ッ タ ー : シチズン MLT
B. 1. 2. 4. 8. 15. 30. 60. 125. 250. 500. 1000 倍数系列等間隔目盛 (ライトバリューステム)、MX 接点切替えによるフルシンクロ機構セルフタイマービルトイン
- フ ァ イ ン ダ ー : 採光式ブライトフレームファインダー
ゴールドンフレームにより明確に構図を決定でき、パララックス完全自動匡正 倍率 0.7 倍
- 距 離 計 : プリズムを使用した高性能の一眼二重像式連動距離計 有効基線長 31.2 mm
- 焦 点 調 節 : ボディー背面の焦点調節ノブによる独特のリモートフォーカシングシステム
- 電 気 露 出 計 : 高性能反射光式ゼロ・メソッド連動電気露出計で、特に光電池と電気回路に画期的な方式を採用しているため、どの明るさにおいても指針は正確な露光を指示し、また受光板質に温度保証の方法がとられているので、温度変化に影響されず常に安定した指示が得られます。
- フ ィ ル ム 巻 上 げ : セルフロックingleバー式 1 回巻上げ、二重露光完全防止
- フ ィ ル ム カ ウ ン タ ー : 積算式 (順算式) 裏蓋を開くと自動的にスタートマークに戻る
- フ ィ ル ム 巻 戻 し : 巻戻しボタンを一度押して、クランクハンドルで巻き戻す
- フ ィ ル タ ー 取 付 マ ウ ン ト : ねじ込み式で、ねじ径 35.5 mm
- 外 型 寸 法 : 幅 138 × 高さ 87 × 厚み 65 mm
- 重 量 : F 1.9 付 770 g F 2.8 付 765 g (本体のみ)
- 付 属 品 : 皮ケース、レンズフード、ハンドバンド、つり紐取付用耳環

各部の名称

1. 距離目盛
2. 被写界深度目盛
3. シャッターボタン
4. 露出計指針窓
5. 受光板
6. 露光指数切替えリング
7. 露光指数切替えボタン
8. 絞り調節リング
9. 絞り目盛窓
10. シャッター速度目盛窓
11. シャッター速度調節リング
12. 撮影レンズ
13. フィルター取付けマウント
14. セルフタイマーセットレバー
15. 絞り調節レバー
16. 露出計連動解除ボタン
17. 距離計窓
18. ゴールデンフレーム窓
19. ファインダー窓
20. つり環
21. フィルム巻戻し用クランク
22. アクセサリーシュー
23. 接眼窓
24. フィルム巻戻し軸
25. フィルム室
26. 裏蓋開閉爪
27. MX接点切替えレバー
28. フラッシュ接続ソケット
29. 三脚取付けネジ
30. フィルムカウンター窓
31. 巻戻しボタン
32. フィルム巻上げレバー
33. フィルム種別指示板
34. スプロケット
35. フィルム巻取りスプール
36. 焦点調節ノブ





23

24

25

29

26

30

27

28

36

34

35

32

31

33

フィルムの入れ方

※ フィルムをカメラに入れるときは直射日光を避けて下さい。

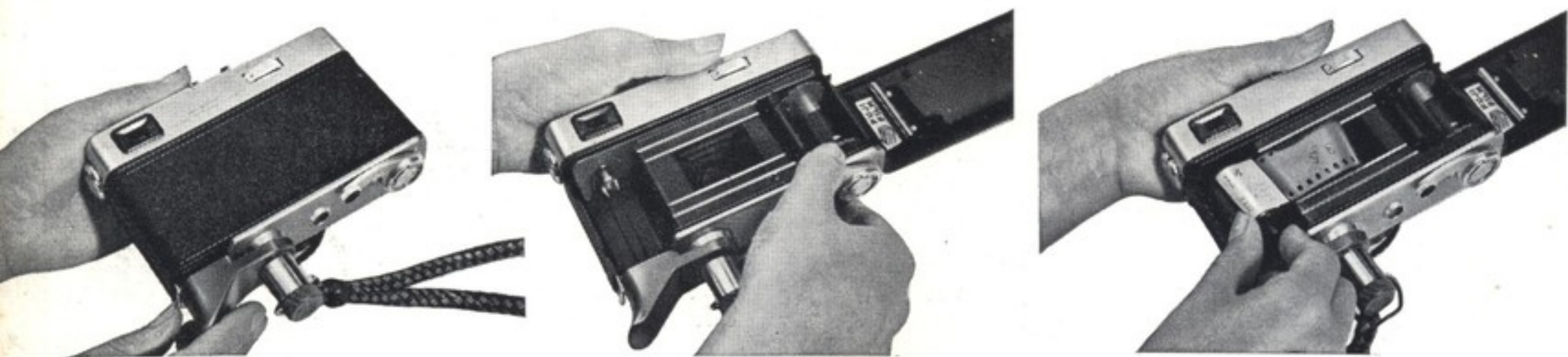
フィルムの入れ方は各部名称の番号を参照しながらお読み下さい。

① カメラの裏蓋開閉爪
②⑥を引き出しますと、
裏蓋が浮き上がります
から、裏蓋を完全に開
いて下さい。

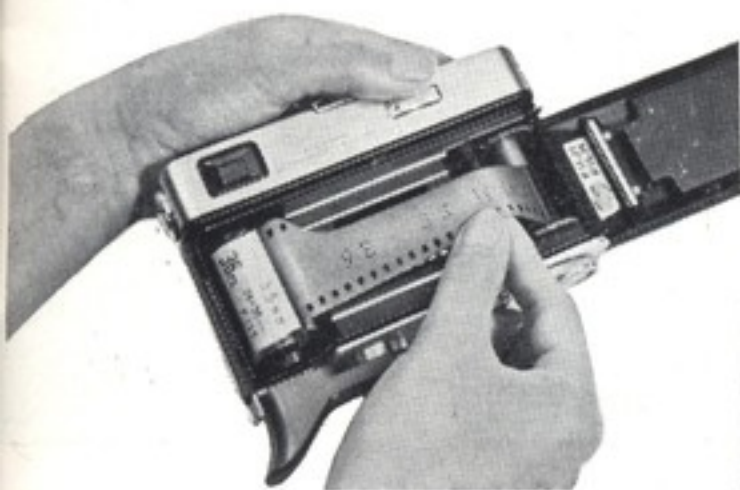
② 親指でフィルム巻取
りスプール③⑤を矢印の
方向に回して、フィル
ムさし込み口を真上に
向けます。

③ パトローネ（フィル
ムの容器）の軸が出て
いる方をカメラの底部
に向けてフィルム室に
はめ込みます。

※ 本機のフィルム巻戻し軸は二重結合で動くようになっていますが、これはあらゆるパトローネに適合するための安定装置です。

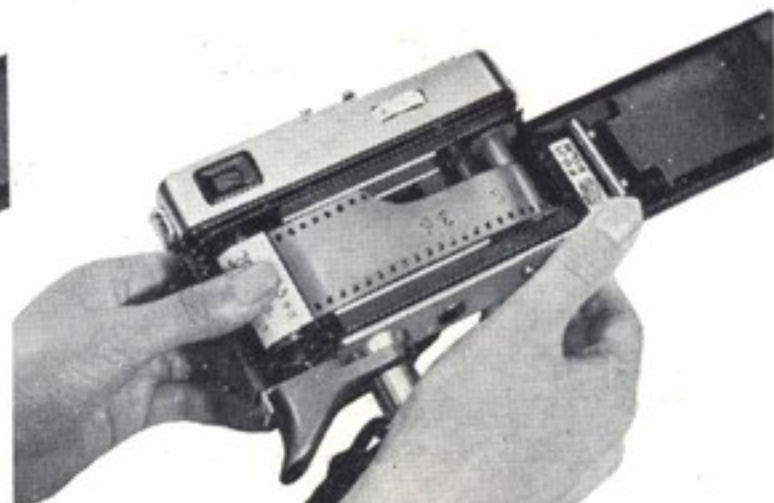


④ フィルムの先を巻取りスプール③⑤の矢印のある側にぴつたり寄せて、スプリング板の隙間にさし入れて下さい。矢印の穴の下をフィルムが通るまで十分に押し込んで下さい。



⑤ フィルムのパーフォレーション（穴）を、スプロケット③①の歯にかみ合わせながら、巻上げレバー③②を止まるまで静かに巻き上げます。

この場合、パトローネを軽く押えてフィルムがたるまないようにして下さい。



⑥ 裏蓋を閉じ、開閉爪を掛け、シャッターボタン③を押します。



- ⑦ フィルムカウンター③⑩はいま“S”
(スタートマーク)を示していますから、“1”をさすまでフィルムを巻き
上げ、シャッターをきります。

フィルムが正常に巻き取られていれ
ば、カメラの側面にある巻戻し用クラ
ンク②①が必ず回転します。

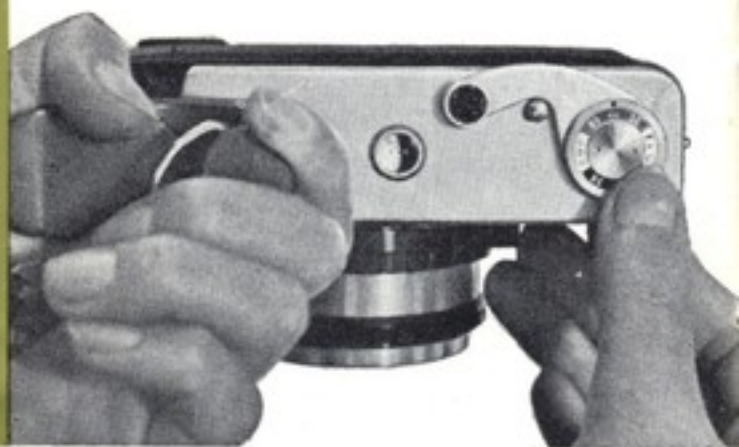
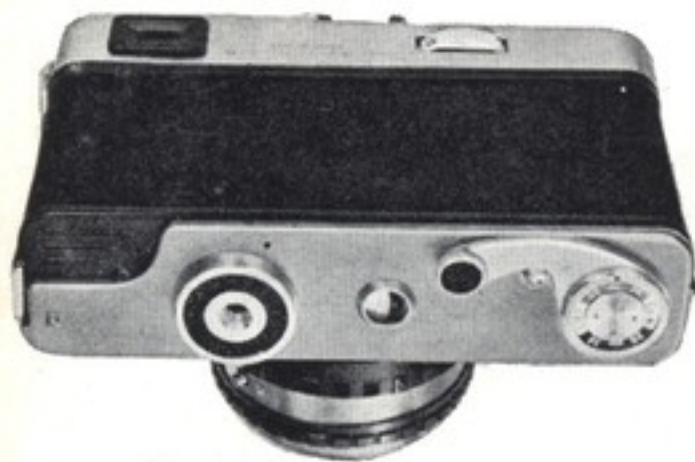
- ⑧ フィルム装填が終了しましたら忘れず
に巻上げレバー軸についているフィル
ム種別指示板③③の爪を回して装填した
フィルムの種類を外側の●印に合わ
せて下さい。

赤色はカラーフィルム

黒色は黒白フィルム

数字はフィルムコマ数 (36 EX また
は 20 EX)

フィルムが入っていない時は EMP
に合わせておきましょう。

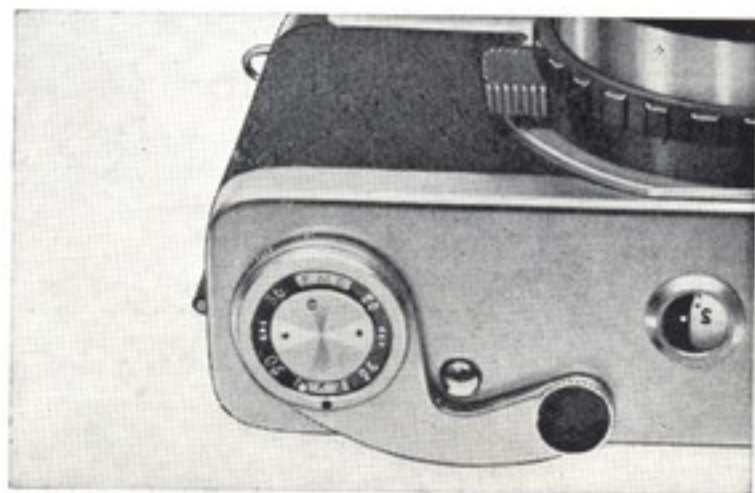


フィルムの取り出し方

フィルムを取り出す場合も直射日光を避けて下さい。

カメラの底部にある巻戻しボタン③①を押しますとボタンは引込んだままになります。

次に巻戻しクラック②①を起して矢印の方向へ回します。フィルムが全部巻き戻され
ますと巻戻しクラックの回転が軽くなり、巻戻しボタンの回転が止まりますからこれ
で確認できます。巻戻し終了を確認してから蓋を開いてフィルムを取り出して下さい。



連動露出計の使い方

フィルムの露光指数とは

フィルムが光に感じる度合、すなわちフィルムの感度を知る目安として露光指数という値が決められています。

この数値は、ASA（アメリカ標準規格）で決められた数値が多く使われており、下記の系列のいずれかの値で表わされていて、俗にASA感度等といわれているものです。

8. 10. 12. 16. 20. 25. 32. 40. 50. 64.
80. 100. 125. 160. 200. 250. 320. 400. 500. ………

JIS（日本工業規格）でも、これと同じ数値を採用しており、JIS 100（ASA 100）というように使っています。

この数列は、その数値が2倍であると、フィルムの感度も2倍であることを示し、たとえばJIS 100のフィルムは同じくJIS 25のフィルムの4倍の感度を持つていることを示します。

したがって、この数列のどの数値からでも、二つとばして三つ目の数値で感度が2倍または1/2になるようにできているわけです。

富士フィルムの露光指数を次に記します。

露光指数一覧表

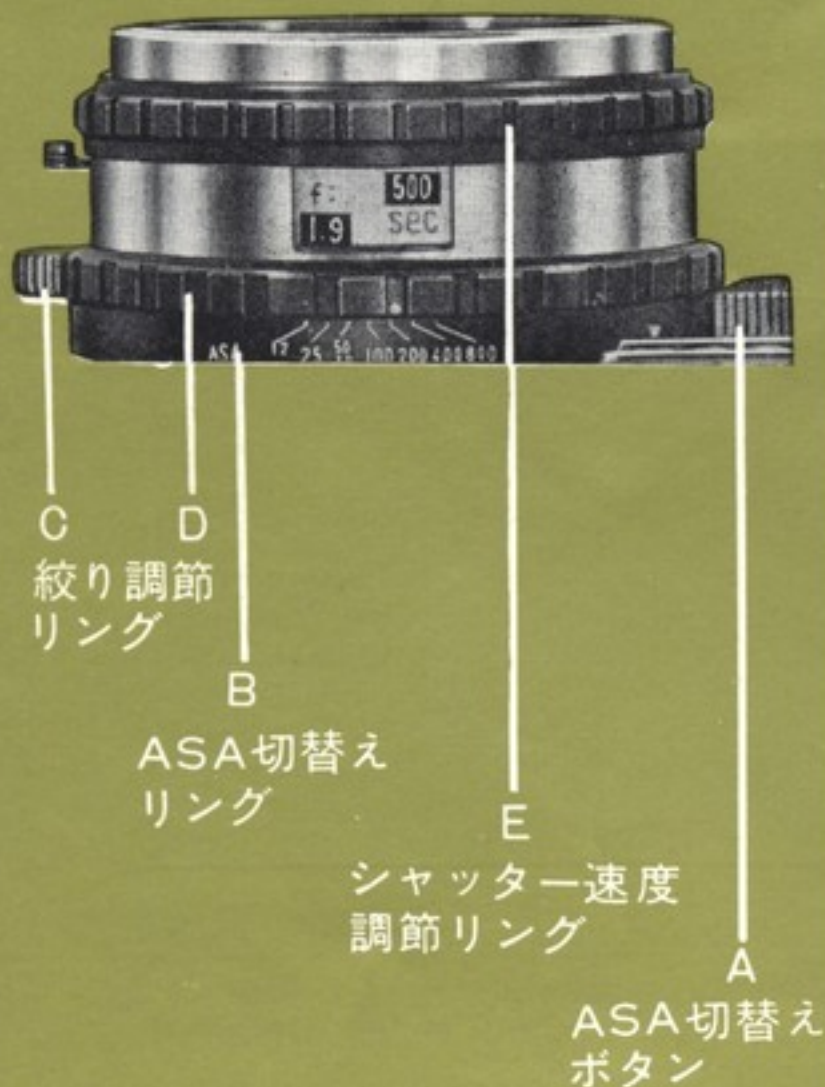
フ イ ル ム 名	昼 光	電 燈 光
ネ オ パ ン F 35 mm	32	25
ネ オ パ ン S S "	100	80
ネ オ パ ン S S S "	200	160
フ ジ カ ラ ー リ バ ー サ ル "	10	—
フ ジ カ ラ ー ネ ガ テ ィ プ "	32	32

フジカラーリバーサルは昼光用のフィルムですから、電燈光では正しい色再現をしませんので電燈光の露光指数は決めてありません。

同じカラーフィルムでも、フジカラーネガティブは、昼光・電燈光兼用のフィルムで、どちらの光源でも同じ露光指数で使用できます。

露光指数の合わせ方

- このような露光指数は、フィルムの箱に同封された使用説明書に必ず記されておりますから、カメラをフィルムに装填する前にまずこの露光指数を確認します。
- 露光指数がわかりましたら、まずボタンAを引っ張りながら、リングBを回してそのフィルムの露光指数をリングD上の白点に合わせてボタンAをはなします。
ボタンAをはなしますと、リングBとリングDはこの関係位置で固定され、レバーCによりリングDを回すとリングBは常に一緒に回転します。これで、いま合わせた露光指数に露出計が連動するようにセットされたわけです。
- リングBに記されていない露光指数の合わせ方については16頁をご参照下さい。



露出計指針の合わせ方

露出計の受光板を被写体に向け、リングDを回して、露出計指針窓の赤い針を動かし、図のように黒い四角形の範囲内に入れます。この場合、今組み合わされているシャッタースピードが不適當ですと、少し指先に抵抗を感じますが、自動的にリングEも回転して組み合わせが修正されますから、そのまま指針が四角形の範囲内に入るまで回して下さい。これだけで絞りが自動的に調節されて適正露光が得られます。

なお、フジカ 35-S E の電気露出計は固定抵抗を切替える方式ですから、指針は必ずしも四角形の中央に止まるとはかぎりませんが、針が範囲内にありさえすれば、いつでも美しい調子の写真を撮ることが出来るように設計されておりますので、安心してシャッターを切つて下さい。



シャッタースピードの合わせ方

指針を黒い四角形の範囲内に合わせた状態で、シャッタースピード指示窓を見ながら、リングEを回してお好みのシャッタースピード（42頁の表参照）を選びます。

ただしシャッタースピードが“B”の場合は露出計は連動しませんからご注意ください。

シャッタースピードを選ぶ場合フジカ独特のライトバリュースystemにより、シャッタースピードの変化につれて絞りも変り、いずれの組み合わせでも、一定の露光量を与える仕組みになっております。

なお、リングEの回転につれてリングDが回転する場合（たとえば絞りが変化できない限界まで来ていて、更にシャッタースピードを変えたい場合）はライトバリューも変化したわけですから、露出計の指示をもう一度たしかめて下さい。

絞り目盛が全開しない時

○ 暗い所で、ご使用になるとき、もしも絞り目盛が開放絞りまで回らず、しかも露出計の針が窓の右側に寄つて中央に戻らなければ、被写体は露出計の連動範囲よりは暗いわけですから、次のようにして連動を解除すれば、開放絞りまで開くことがで

きます。

- リング B に記した白○マークが、ボディ前面に記された弧の範囲内にある時は電気露出計に連動していますから、露出計連動解除ボタン◎⑬を矢印の方向に押し上げつつ、リング D を時計方向に回わせれば、絞りを全開まで開けることができます。
- この状態では露出計は連動しませんので、指針が作動せぬ構造になっております。
- たとえば露光指数 JIS 12 (ASA 12) のフィルムでシャッタースピードを“B”にしなくてはならないくらい暗い所で、リング D をいっぱいまで回しても連動範囲では絞りは 4 までしか開きませんが、露出計連動解除ボタンを矢印の方に押し上げながら、リング D を更に時計方向に回わすと、全開絞りまで回すことができます。
- なお、シャッタースピードを“B”に合わせた場合は、露出計の指針はリング D を動かすと作動しますが、露光時間が不定なので露出計は連動いたしません。



露光指数切替えリングBに記されていない露光指数を用いる場合

○露光指数の系列は、先に記したように三つ目ごとに2倍または1/2になるように作られていますので、たがいに2倍または1/2になるものどうしで三列に分けますと、下表のようになります。

露光指数8から800までの系列表

白 列		12		25		50		100		200		400		800
赤 列	10		20		40		80		160		320		640	
黄 列	8		16		32		64		125		250		500	

○上表に示された関係から、フジカ 35-SE においては、露光指数8から800までの任意の指数が選べるわけで、その要領は下記のとおりです。

- ① 露出計指針窓内の黒い四角で白列の露光指数
- ② 露出計指針窓内の赤い四角で赤列の露光指数
- ③ 露出計指針窓内の黄色い四角で黄列の露光指数

を使用することができます。

たとえば、カメラのリングBを露光指数100に合わせたとしますと

- ① 露出計指針窓の中の黒い四角に針を合わせるようにすれば、露光指数100
- ② 露出計指針窓の中の赤い四角に針を合わせるようにすれば、露光指数80
- ③ 露出計指針窓の中の黄色い四角に針を合わせるようにすれば、露光指数64

のフィルムに露出計を連動させることができるわけです。

次に具体的な例をあげてご説明しましょう。

例 1 フジカラーリバーサル（露光指数 JIS 10 ASA 10）を用いる場合
（この場合、同じ露光指数10ならば、白黒フィルムでも同様です）

方法 1) リングBを露光指数12に合わせる

2) 露出計指針窓の赤い四角の上に針を合わせる

これで、露光指数10のフィルムに露出計を連動させられるわけです。

（リングBに赤文字で10と入っているのはこの例の意味です。）

例 2 ネオパンSSをカメラに入れて昼間から夜間にわたって撮影する場合

方法 ネオパンSSの露光指数は11頁の表に示したように昼光100 電燈光80ですから、

- 1) まず、リングBは露光指数 100 に合わせます。
- 2) そして昼光で撮影する場合は、露出計の針を黒い四角に合わせます。
- 3) 夜になつて電燈光で撮影する場合は、今度は針を赤い四角に合わせます。

例 3 ネオパンFを用いて昼光で撮影する場合

方法 ネオパンFの昼光の露光指数は 32 ですから、

- 1) リングBは露光指数 50 に合わせておき
- 2) 針を黄色い四角に合わせるように調節します。

(リングB上に黄文字で32と記されているのはこの意味です。)

例 4 フジカラーネガをカメラに入れて、日中から夜間にかけて撮影する場合

方法 フジカラーネガティブフィルムは、昼光でも電燈光でも使用でき、しかも、その露光指数は昼光・電燈光共に 32 ですから、

- 1) リングBは露光指数 50 に合わせる。
- 2) 針を黄色い四角に合わせるように調節します。

例 5 ネオパン S S S をパンドールで増感現像する場合

方法 ネオパン S S S は、露光指数 200 ですが、あらかじめパンドール等によつて増感現像をすることがわかっている場合は、この増感倍数を掛けた値、たとえば $200 \times 4 = 800$ に合わせておくこともできます。この場合は

- 1) リング B を 800 に合わせ
- 2) 針は黒い四角に調節します。

例 6 ネオパン S S をカメラに装填し、露光倍数 3 倍のフィルターをかけたまま、撮影する場合

方法 ネオパン S S の昼光の露光指数は 100 ですが、露光倍数 3 倍のフィルターをかけると、実効の露光指数は、 $100 \div 3 \doteq 32$ となりますから、フィルターをつけたまま撮影する場合には、露光指数 32 のフィルムを使う要領で行ないますと便利です。すなわち

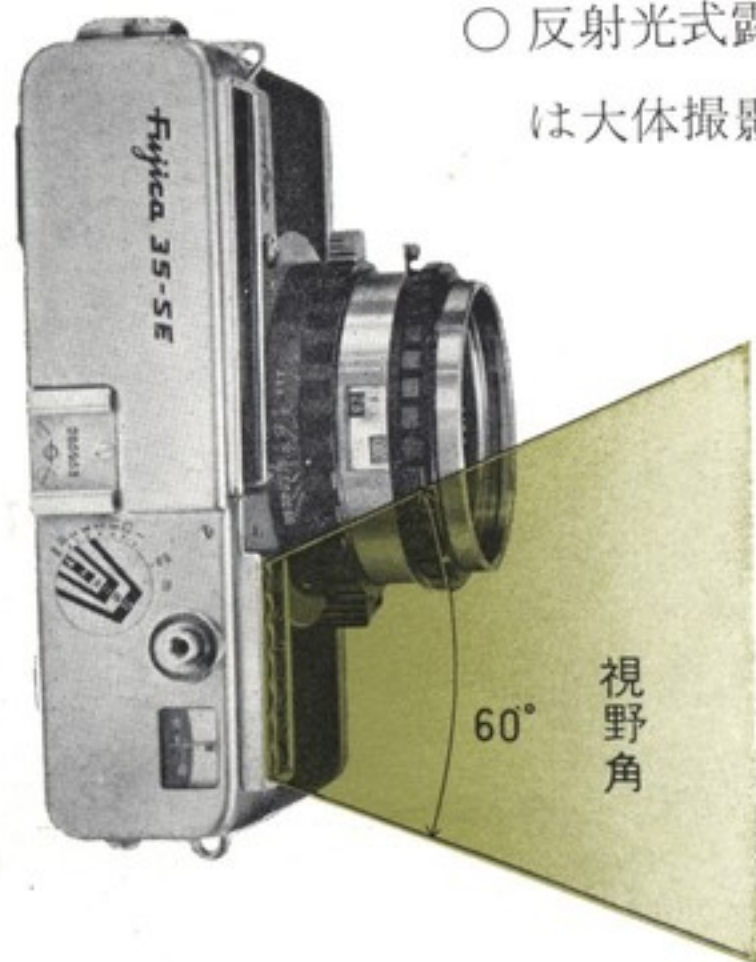
- 1) リング B を露光指数 50 に合わせ
- 2) 針が黄色い四角に合うよう調節します。これでフィルターをかけた状態に対して露出計が連動していることとなります。

露出計の正しい測り方

○ フジカ 35-SE の連動露出計は反射光式露出計ですから、被写体から反射してくる光の強さを測って露光量を決定する方式で、指針の合わせ方は ^{ゼロ・メソッド} 0-method です。

○ 反射光式露出計には、視野角と呼ばれる値が決まっております、これは大体撮影レンズの写角に近い値をとるのが普通ですが、フジカ 35-SE では、この視野角は約 60° ぐらいですから、おもに、受光板から、頂角が約 60° ぐらいの円錐内に含まれる被写界からの反射光で露出計の針が振れるわけです。

○ ですから、測定の基本としては、受光板を、いいかえればカメラを撮影する被写体の方向に向けて測ればよいわけですが、露出計はさきほどの視野角内の平均の明るさに対して露出計の指示が出ま



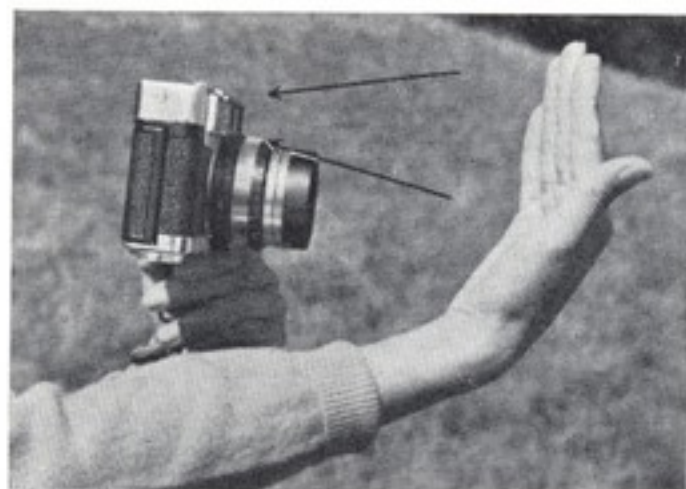
すので、視野角内に極端に明るいものがあるような場合には、主として、その明るさだけで露出計が動いてしまい、暗い所に対しては露光不足な指示が出てしまいます。

○そこで、このような状態のとき、ご自分の希望される被写体部分に自由に露光量を合わせるためには、下記にその要領を示したように若干のテクニックが必要になります。

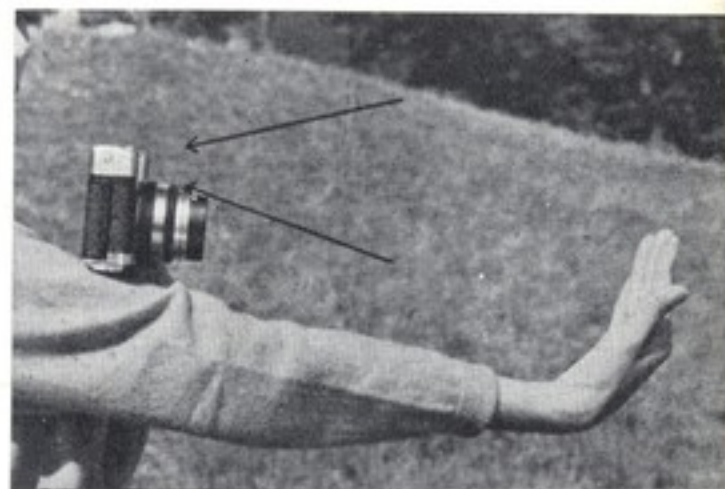
1) 画面内でおもに露光を合わせたいと思われる被写体になるべく近接して露出計を合わせること。

1) 露出計の視野角が約 60° ですから、たとえば手のひらぐらいの大きさの被写体面を測る時は、約10cmぐらいの距離で測れば手のひらの反射だけで露出計の針が振れ

正しい測り方



遠くの空の光が入ってしまう





ますが、距離が 20 cm もはなれますと、手のひらのまわりから遠くの空の光りなどが露出計の受光板に入つて来て、手のひらに対しては狂つた露光量を与えることになります。

2) また、あまり近寄りすぎて、カメラや撮影者の頭の影などができ、その影のところを測つてしまいますと、露光過度になつてしまいますから注意が必要です。

3) 被写体にあまり近づいて測りますと、前記のように被写体のごく一部分からの反射光で露光を測るわけですから、被写体の各部で明暗差が多い場合は、そのハイライト（明るいところ）とシャドウ（暗いところ）とを測り、その平均値に対して露光するのが普通の方法です。（26頁写真参照）

4) また、ポートレートのように人物の顔がおもな被写体で、これに露光を合わせる場合、日中の屋外などで

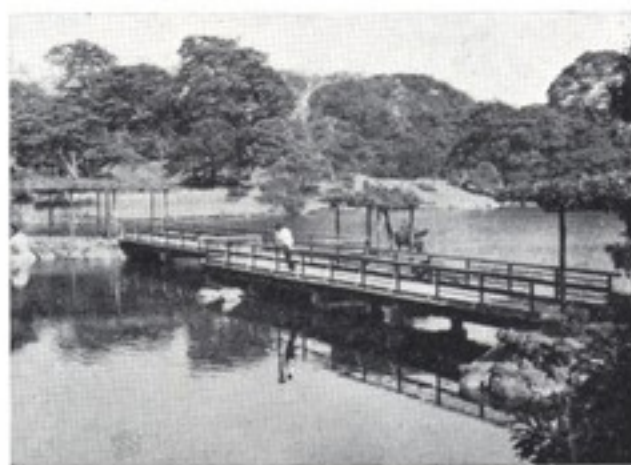


よく使われる方法ですが、手のひらが大体垂直面になるようにしてこの手のひらの反射光で露光量を決めます。すなわち、日中の場合は光源が無遠にありますが、被写体の近くまで近寄らずとも、この方法でポートレート等は撮影できるわけです。（ただし、写される人物は日陰にあり、手のひらは日光にかざしたのでは、もちろん正しくありません。被写体と手のひらの照明は同一条件であることが前提になります。）

(26頁写真参照)



風景撮影の正しい測り方



風景撮影の誤った測り方



2. 風景のように近寄つて測れない被写体については、天空光の影響を考慮に入れることが必要です。

1) 空の入らない風景では、普通の方法、つまり受光板を被写体の中央部に向けて得た露光量で正しい結果が得られるのはいうまでもありません。

2) 空の入った風景では、空が地上にくらべて明るすぎるので、ほとんどこの光に対する露出計の指示が出るため、地上の暗部に対してはかなり露光不足になります。したがって、雲などの空を主目的として撮影する場合は、もちろん、そのまま露光してさしつかえないわけですが、地上の風景が主目的の場合は、カメラを胸の高さぐらいに持って、約2m前方の地面にカメラを向けて測ります。それで天空光の影響を除き、地上に露光を合わせることができます。(23頁写真参照)

3) ウスモヤのかかつたような遠景を撮影する場合などは、被写体コントラスト(明暗の差)が少ないので、露出計で測定した結果よりも一絞り絞つた方がよい結果が得られます。なおこの際

順光線による撮影



UV フィルターや偏光フィルター等を併用すると、遠景はより明瞭に撮影できます。

3. 逆光線の撮影では、ご自分の作画意図に従って、主体となる被写体部分に適正露光を合わせます。

1) たとえば人物の逆光線撮影でその人のシルエット（影絵）を出したい時には、明るい背景に露光を合わせればよいわけで、撮影位置からカメラを被写体に向けて測つたままでも充分です。

斜光線による撮影



横光線による撮影



半逆光線による撮影



逆光線による撮影



被写体のそばに寄って測らないとまちが
った露光がでてしまうことがあります。

白と黒の極端な差のある被写体では 測る
場所によつてこんなに露光がちがいます。



2) 人物の日陰の部分、たとえば人物の表情などを描写したいならば、被写体に近づいて注意深く影になつている顔の部分の反射光を測るか、また、日中ならば手のひらを逆光にかざして、この影の部分で代換測定を行なつて露光を決めます。このような場合、順光の時にくらべて4倍ぐらいの露光量が必要になるのが普通です。

4. カラーフィルムの場合でも、まったく白黒フィルムと同様な操作でさしつかえありません。

1) 特にフジカラーネガティブのように昼光と電燈光兼用のフィルムの場合には露光指数も変えることが不要ですので、まったく自由にご使用いただけます。

2) フジカラーリバーサルのように昼光専用のフィルムの場合には、露光量は連動露出計でまったく自動的に与えられますが、一般の昼光用カラーフィルムは日中の太陽光線の場合に対して正しい色再現をするようにできていますので、電燈光や夕方の光線のようにやや赤味を帯びた光（色温度の低い光）などでは、たとえ露光量が正しくても正しい色再現をいたしません。

3) そこで、この場合には色補正フィルター、たとえば富士フィルムの CCB フィルターを併用する必要があります。

倍数系列のシャッターと等間隔絞りについて

- フジカ 35-SE に装備されているシチズン MLT シャッターは $1/1000$ 秒を実現した最新鋭レンズシャッターで、等間隔倍数系列目盛を使用し、一定のライトバリューを得ながら連動して絞りとシャッター速度を変えさせることができるほか、フルシンクロ機構とこれと独立して作動するセルフタイマーを内蔵しています。

- シャッター速度は B, 1, 2, 4, 8, 15, 30, 60, 125, 250, 500, 1000 となっており、“B”はバルブ露光(シャッターボタン③を押している間はシャッターが開いている)に使用し、“B”以外の速度目盛は瞬間的な露光時間の逆数で示してあります。つまり1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、60は $\frac{1}{60}$ 秒を示しています。
- 旧来のシャッターは、B, 1, 2, 5, 10, 25, 50, 100, 250, 500, というように1目盛ごとに2倍または $\frac{1}{2}$ に変化しない目盛が使用されていて、その目盛間隔も不等間隔でしたが、のちに記す絞り目盛とともにシャッターが等間隔倍数系列になりましたので、ライトバリューの実用に大変便利になつたわけです。
- 絞りは露光量(露光時間×明るさ)の内の明るさを調節するとともに、鮮鋭描写の深さ(被写界深度の項参照)を調節する大切な働きをするものですが、この絞りの開き具合をあらわす目安が絞り目盛です。フジカ 35-SE の絞り目盛は F 1.9 レンズ付きのものでは 1.9, 2.8, 4, 5.6, 8, 11, 16, 22 というように一目盛ごとに2倍または $\frac{1}{2}$ になる倍数系列です。(ただし正確には 1.9 は 2.8 の2倍より少し明るいのですか) しかも、絞り目盛間隔も等間隔です。

ライトバリュースystemについて

- ライトバリューというのは、ひと口にいえば露光量（露光時間×明るさ）が一定になるようないくつかのシャッタースピードと絞りとの組み合わせを一つの指数（これをライトバリューと呼ぶ）であらわしたもので、この指数が1増すごとにフィルムに当る露光量が $\frac{1}{2}$ に、また1減るごとに2倍になるように決められたものです。
- すなわち、露光量が倍数系列であることは露光量が 2^n の比で増減する数列であるわけで、たとえば n に 1, 2, 3, …… の数を入れて計算しますと、 2^n は次表のように倍数系列になります。

n	0	1	2	3	4	5	6
2^n	1	2	4	8	16	32	64

- そこで、いま $f 1$ の絞りと 1 sec. のシャッタースピードの組み合わせを基準にして、 n が1つ増すごとに露光量が $\frac{1}{2}$ になるようなそれぞれのシャッターと絞りの組み合わせを表にしてみると 31 頁の表のようになります。
- すなわち、上記の 2^n の指数 n をライトバリューと呼んでいるわけです。
- そこでライトバリューを一定にしてシャッターと絞りの組み合わせを自動的に連

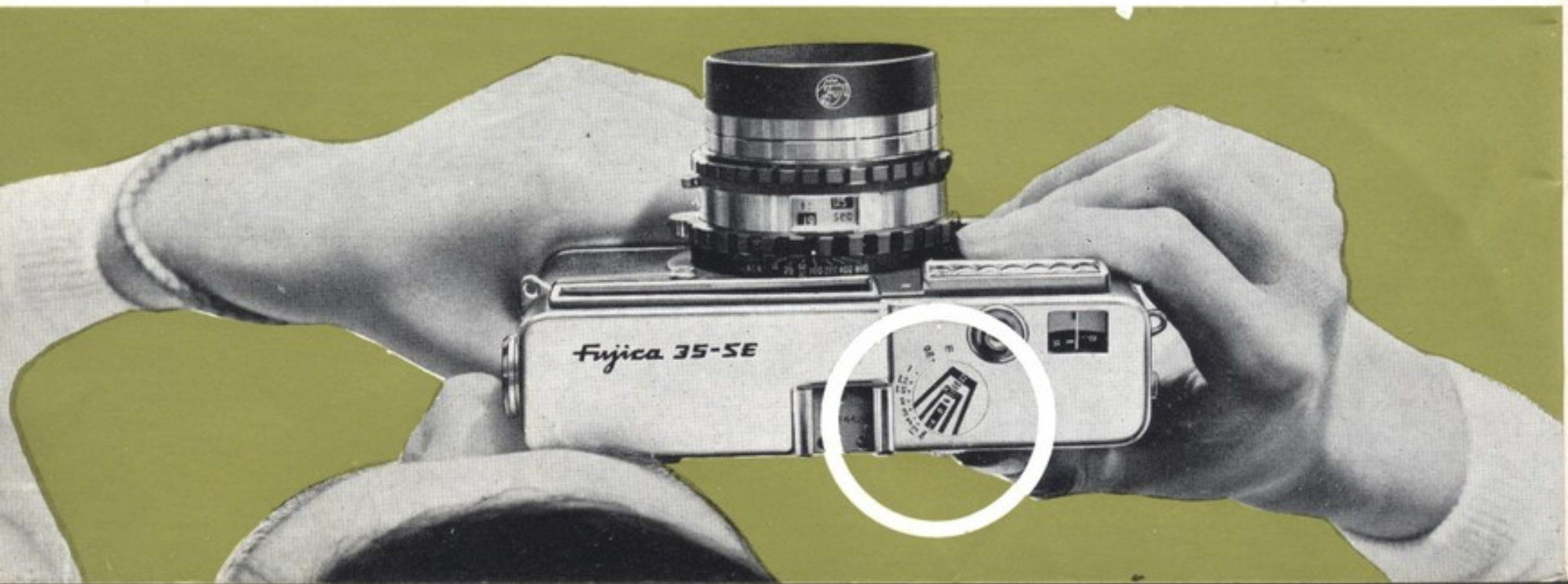
動して変化させることができれば、被写体の明るさとフィルムの感光度が一定なら、シャッタースピードを変えても絞りを變えても常に適正露光が得られるわけで、フジカ35-SEのシチズンMLTシャッ

n (ライトバリュー)	0	1	2	3	4	5	6
露光比 fナンバー	1	2	4	8	16	32	64
f 1	sec 1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64
1.4		1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32
2			1	1/2	1/4	1/8	1/16
2.8				1	1/2	1/4	1/8
4					1	1/2	1/4
5.6						1	1/2
8							1

ターもこのライトバリューシステムを採用しております。連動露出計が装備されていますので、ライトバリューの表示は不要ですから、カメラにはライトバリュー目盛は記入されておられません。

フジカ 35 の独創的な焦点調節機構

フジカ 35 の接眼窓は大きくて非常に見やすく、眼鏡をかけた方でも焦点調節の際、眼鏡をはずす必要はありません。被写体に焦点が合っていない時は被写体の像が二重に見えます。焦点を合わせるには、カメラ背面にある焦点調節ノブ③⑥を親指で回します。この操作はカメラを目の高さに構えたまま、ごく簡単にでき、まことに便利です。



ピントが合っている



ピントが合っていない



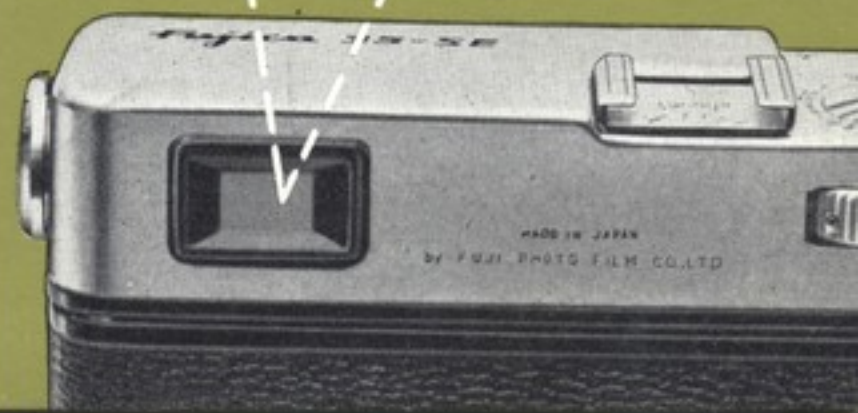
二つの像が重なって一つに見えた時、その被写体にピントが合っているのです。

この時のカメラから被写体までの距離は距離目盛に表示されます。



フィルム面指標

被写体までの距離とは、カメラ内部のフィルム面を基準としており、アクセサリシュー上の \ominus はこのフィルム面を示しています。



フジカ 35 の Giant Picture Window



フジカ35の接眼部に目を当ててご覧になると被写体は鮮明な金色の枠（ゴールデンフレーム）に囲まれて見えます。

このゴールデンフレームによつて画面を確実に決めることができます。

焦点を遠景から近くのものへと移してゆきますと、ゴールデンフレームは窓の対角線にそつて右下のレンズ方向へ移動します。

これはファインダーに組み込まれたパララックス（視差）匡正装置が自動的に働いているからで、この自動装置によつて、頭が切れたりする失敗はまったくありません。

なお、遠距離の場合、フィルムに撮影される実画面はゴールデンフレームの内側に見える範囲より多少広くなります（約115%）。近距離ではほぼ同範囲です。

フラッシュ同調撮影の仕方

ご使用のフィルムに同封の説明書によつて電燈光露光指数を調べて下さい。次にシャッター速度調節リングをご希望の速度に合わせて、閃光電球に付属しているガイドナンバー表から上記の露光指数とシャッター速度の組み合わせに対するガイドナンバーを見つけます。そして閃光電球の使用位置から被写体までの距離でガイドナンバーを割つた数字にレンズの絞りを合わせれば適正露光が得られます。

フラッシュ同調表

バルブの種類	シャッター接点切換え	
	M	X
M 級	全速度同調	1/60 以下
F 級	不 能	1/125 以下
スピードライト	不 能	全速度同調※

※ 但し1/1000秒の場合、ある種のスピードライト発光器では、同調しない場合があります。

フジカ 35 の 便 利 な 付 属 品

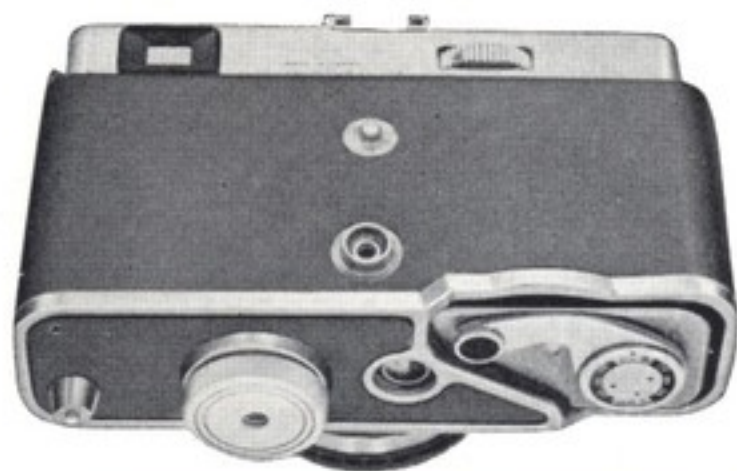


レンズフード

フジカの優れた性能を完全に発揮させるためにぜひこの付属品をご使用下さい。

(レンズフードとハンドバンドは別販売です。)

- レンズフードはご使用の便をはかつて特に工夫して作られ、プラスチックの



皮ケース

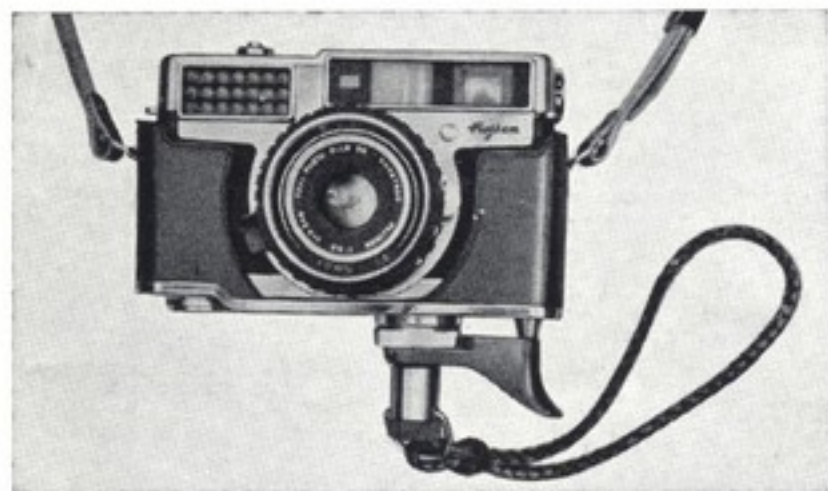
部分がレンズ前面のリングの内側の溝にはまるようになっていて着脱が敏速に行なえます。

- フジカ35は、新しいアイデアのリモートフォーカシングシステムを採用して、カメラをしつかり保持して撮影するよ



ハンドバンド

う設計されていますが、更にこのハンドバンドを利用すると、いわゆるカメラブレを防ぐだけでなく、カメラを不意に取り落したりする危険もなくなります。



皮ケースのままでも
ハンドバンドがつけられます

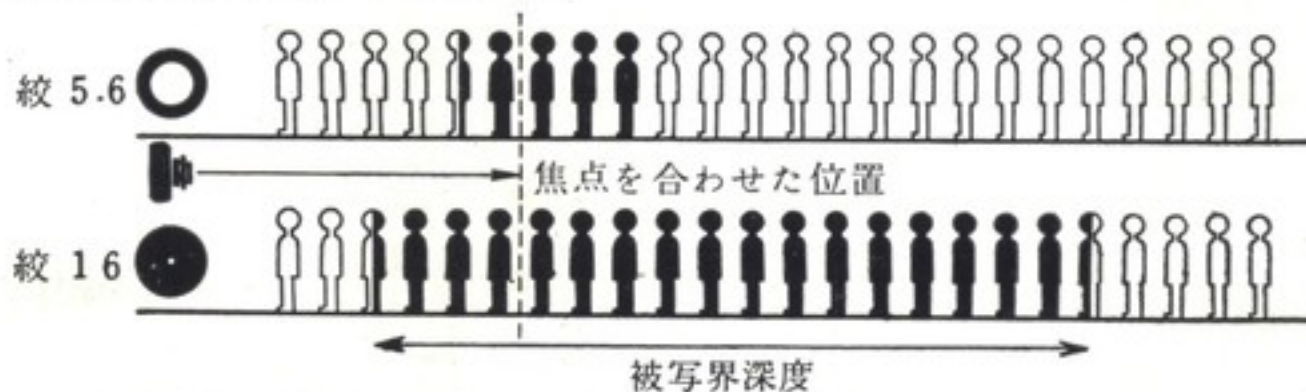
○皮ケースも充分皮質を吟味し、補強金具をつけてあります。またカメラを皮ケースに納めたままハンドバンドが使用できるよう皮ケースの底部に突起がつけてあります。

取扱い上のご注意

- シャッターをセットしたまま長期間放置して置くのはシャッターの性能保持上好ましくありません。
- シャッターをセットしたあとで速度を変更してもさしつかえありません。
- レンズシャッターは一般に目盛の中間に合わせても中間の速度は出ません。
- シンクロ撮影をしない時は MX 接点切替えレバーを X 接点の方に合わせておいてください。
- セルフタイマーのセットは、シャッターセットの前でもあとでも、どちらでも結構です。
- ご使用後の清掃については、特にレンズの場合、柔く清潔な刷毛または布で軽く埃をはらう程度にとどめて下さい。もし指紋などのついた場合には、洗いさらした清潔な木綿布にアルコールを少量つけて軽く拭きとります。
- 受光板の清掃は、刷毛または布で軽くはらう程度にとどめ溶剤は使わないで下さい。
- フィルムを写し終つて最後に巻き上げたとき、途中でレバーが止まり皮ケースがはずせないときは、巻戻しボタンを押しながら巻き上げて下さい。

被写界深度の見方

- 絞りはフィルム面に到達する光の量を調節するほかに、鮮鋭描写の深度を調節する役目を持つております。
- いま被写体上の一点に焦点を合わせますと、その点だけが鋭い点としてフィルム上に記録され、その前後の点は小さなボケの円（錯乱円）となつてフィルム上に記録されるはずですが。
- しかし、このフィルムを現像して調べてみますと、上記の焦点を合わせた点の前後もかなりの範囲に焦点が合っていることがわかります。
- これは眼にも解像力の限界があつて、フィルム上のごく小さなボケの円は鋭い点と区別できないことにおもな原因があり、このように見かけ上、焦点の合っていると思われる被写体上の距離を被写界深度と申します。



フジカ 35 の被写界深度表

- 前記のように被写界深度は、どれくらいの大さきのボケの円までを焦点が合っているとみなすかで変化し、写真を眺める距離や引伸倍率にも関係があります。
- 下記のフジカ 35 の深度表は、錯乱円（ボケの円）の直径を 0.05 mm に選んで、これに基づいて深度を計算したもので、この程度のボケの円では、約 4 倍くらいに引伸しをして、この写真を眼から 25 cm くらい離して眺めたのでは、まったくボケていることがわからない程度です。

		m													
		F	0.8	1	1.5	2	2.5	3	4	5	6	8	10	20	∞
F 1.9 45mm レンズ	}	1.9	0.77 ~0.83	0.96 ~1.04	1.41 ~1.61	1.84 ~2.20	2.25 ~2.82	2.64 ~3.47	3.38 ~4.90	4.07 ~6.50	4.70 ~8.30	5.84 ~12.72	6.84 ~18.68	10.36 ~∞	21.42 ~∞
		2.8	0.76 ~0.84	0.94 ~1.07	1.37 ~1.66	1.77 ~2.31	2.14 ~3.00	2.50 ~3.76	3.15 ~5.49	3.74 ~7.58	4.26 ~10.16	5.18 ~17.70	5.94 ~31.89	8.44 ~∞	14.46 ~∞
F 2.8 45mm レンズ	}	4	0.75 ~0.86	0.92 ~1.10	1.32 ~1.74	1.68 ~2.47	2.02 ~3.29	2.33 ~4.22	2.89 ~6.53	3.37 ~9.74	3.80 ~14.48	4.50 ~36.99	5.07 ~547.5	6.77 ~∞	10.13 ~∞
		5.6	0.73 ~0.89	0.89 ~1.15	1.26 ~1.87	1.58 ~2.72	1.88 ~3.76	2.14 ~5.04	2.60 ~8.77	2.99 ~15.75	3.31 ~33.59	3.83 ~∞	4.24 ~∞	5.36 ~∞	7.23 ~∞
		8	0.70 ~0.93	0.85 ~1.22	1.17 ~2.09	1.45 ~3.23	1.70 ~4.81	1.91 ~7.14	2.27 ~18.07	2.55 ~222.2	2.78 ~∞	3.14 ~∞	3.40 ~∞	4.09 ~∞	5.06 ~∞
		11	0.67 ~0.99	0.80 ~1.33	1.09 ~2.45	1.32 ~4.21	1.52 ~7.41	1.68 ~14.98	1.95 ~∞	2.16 ~∞	2.32 ~∞	2.56 ~∞	2.73 ~∞	3.15 ~∞	3.68 ~∞
		16	0.63 ~1.12	0.74 ~1.58	0.97 ~3.47	1.15 ~8.63	1.29 ~79.94	1.41 ~∞	1.59 ~∞	1.72 ~∞	1.82 ~∞	1.96 ~∞	2.06 ~∞	2.29 ~∞	2.53 ~∞
		22	0.58 ~1.32	0.67 ~2.03	0.86 ~6.99	0.99 ~∞	1.10 ~∞	1.18 ~∞	1.30 ~∞	1.39 ~∞	1.45 ~∞	1.54 ~∞	1.60 ~∞	1.73 ~∞	1.84 ~∞

単位 m




錯乱円直径 0.05 mm



- 一般に被写界深度は、錯乱円を一定にして考えると、撮影距離（カメラの \ominus マークから焦点を合わせた被写体面までの距離）と絞りとに関係して変化します。すなわち、撮影距離が遠くなると同じ絞り目盛でも深度は深くなります。また同じ撮影距離では絞りを開けると浅くなり、絞り込むと深くなります。
- また、焦点を合わせた点に対して手前側には浅く、後側に深くなる傾向があります。
- この性質を利用したのが過焦点マークによる撮影方法です。すなわち、カメラ上面の距離目盛の5mが赤文字になつていますが、同様に絞り目盛の8も赤文字になつています。
- ここで赤文字どうしの組み合わせ、すなわち絞りf8で距離を5mに合わせますと、被写界深度目盛②の8に相当する白縞には含まれた範囲が深度内に入ります。
- この関係を深度表で調べてみますと、f8で5mに焦点を合わせた時は、手前は2.55mから222.2mまでが深度内に入ることになります。この場合200mと無限遠はほとんど変わりありませんので、2.55mから無限遠までが深度内に入り、この範囲では焦点調節を行なわないで撮影することができますので、スポーツ等の動きの早い被写体を写す時は大変便利です。

動く被写体を止めて撮影するには

○ 動いている被写体は、被写体とカメラとの距離と、被写体の運動速度、運動方向によつてシャッタースピードを適当に選ばないと被写体を鮮明にとらえることができず、フィルム上にズレた像ができてしまいますから、表を参照してシャッタースピードを選んで下さい。

被写体	走る自動車	走る自転車	歩く人
			
距離(メートル)	30 16 8	30 16 8	30 16 8
正面から	1/60 1/125 1/250	1/15 1/30 1/60	1/8 1/15 1/30
斜めから	1/125 1/250 1/500	1/30 1/60 1/125	1/15 1/30 1/60
側面から	1/250 1/500 1/1000	1/60 1/125 1/250	1/30 1/60 1/125



富士写真フイルム株式会社

東京都中央区銀座西2の3

電話 京橋 (561) 8551・8741(代)

東京出張所	東京都中央区銀座西1の1先 高速道路紺屋区路下室2階	電話 京橋 (561) 8551・8741(代)
大阪出張所	大阪市東区備後町4の15	電話 本町 (26) 231・891(代)
名古屋出張所	名古屋市中区南伊勢町2の8	電話 (24) 4447~9
福岡出張所	福岡市行町54	電話 (2) 1126~8
札幌出張所	札幌市大通り西5の11大五ビル内	電話 札幌 (2) 2002・5582・8783
サービスステーション 富士フォトサロン	東京都中央区銀座西5の4	電話 銀座 (571) 8017
サービスステーション 大阪富士フォトサロン	大阪市東区備後町4の15	電話 本町 (26) 231・891(代)



富士寫眞フィルム株式会社

東京都中央区銀座西2丁目3番地